

## 夏季特有の安全対策

### 1. 熱中症対策の徹底

#### ① 気象状況を把握し、活動を見直す

- ・ 天候に加え、気温、湿度の状況も把握してください。
- ・ 状況に応じて、予定の活動を見直す、中止するなどの判断を確実に行ってください。

#### ② 安全な場所の確保と十分な休憩

- ・ 活動中には、日陰や風通しのよい場所の確保を行い、休憩を十分にとれるよう努めてください。
- ・ 暑さや日差しにさらされる場合は、休憩をこまめにとり、無理をしないようにしましょう。

#### ③ 持ち物・服装

- ・ 野外での活動では必ず帽子をかぶり、通気性のよい服装で活動しましょう。
- ・ 必ず飲み物を用意し、早めに飲むようにしましょう。
- ・ 折りたたみ傘など日よけとして活用するなど工夫しましょう。

#### ④ 水分・塩分補給

- ・ のどがかわいていなくても、こまめに水分をとりましょう。
- ・ 大量の汗をかくときは、特に塩分補給をしましょう。
- ・ 活動中は適宜、休憩と水分を取る時間を持ちましょう。

#### ⑤ その他の配慮

- ・ 活動の内容によっては、単独で行動することがないようにすることも大切です。
- ・ 活動に参加する前の健康状態、とくに十分な睡眠や食事とるようにしましょう。
- ・ これらのことをスカウトだけでなく指導者にも徹底してください。

#### ⑥ 熱中症と思われる時

- ・ すぐに医療機関へ相談、または救急車を呼びましょう。
- ・ 涼しい場所へ移動し、衣服を脱がし、体を冷やして体温を下げましょう。
- ・ 塩分や水分を補給しましょう。（おう吐の症状がある場合や意識がない場合は、むりやり水分を飲ませることはやめましょう）

#### ⑦ 参考（下記の情報を参考に、熱中症の予防、対策に努めましょう。）

- ・ 環境省の熱中症予防情報サイト (<http://www.wbgt.env.go.jp/>)
- ・ 一般財団法人日本気象協会の推進する「熱中症ゼロへ」 (<https://www.netsuzero.jp/>)

### 2. 水辺活動の安全対策

川や海の水には流れがあり、離岸流、ダンパー波、一発波、インショアホールなどといった危険な波があるとともに、冷たい水による低体温症、増水や消波ブロックに潜む危険もありますので、現地の情報等を事前に調査のうえ、十分な安全対策を講じるようにします。

特に、海での活動については、令和元年度スカウティング誌7月号に「海での活動について 自己救命策の3つの基本（①ライフジャケットの常時着用、②連絡通信の確保、③海難の際の緊急通報電話である118番の有効活用）」を掲載していますので、再度ご確認ください。



### 3. 登山・ハイキングでの安全対策

これらの活動には、道迷い、滑落、落石、落雷、崩落、鉄砲水などの危険があります。また、夏山登山でも低体温症は起こり得ます。これらの危険を認識し、最悪の天候を想定した防寒着、雨具等の装備を持つなど対処できるようにします。また、体力増強や体調管理を図り、コンパスワークや読図等のスキルも事前に修得し安全対策の一助とします。



日本連盟ホームページ([https://www.scout.or.jp/member/info/comi\\_tozan\\_20131218/](https://www.scout.or.jp/member/info/comi_tozan_20131218/))に、コミッショナー通達「登山・ハイキングの実施に関して」を掲載していますので参照してください。

### 4. 危険な動植物への対応

野外活動では、危険な生物に遭遇することがあります。最近ではクマの被害も出ています。活動先の環境や動向を調査し、地元の方に情報を聞く等、その対応を必要以上をお願いします。

また、スズメバチ被害も毎年20人前後の死亡者（厚生労働省人口動態調査より）が出ており、最も危険な生物といえます。毒蛇、ムカデ、ヒルなどの危険生物の他、マダニ等の媒介による感染症が多く報告されておりますので、マダニの生息場所に入る場合には、長袖の服、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくし、活動後には、入浴して体をよく洗い、付着したマダニがないか点検し、衣服は洗濯するなど予防に努めます。また植物では、ウルシや棘のあるノイバラなどにも注意が必要です。接触の可能性がある場合は、被害に遭わないよう予防に心がけるとともに被害への対処ができるようにします。

### 5. 食中毒対策

夏季はO157など食中毒が発生しやすくなります。食材の保存には十分注意して、予防対策を講じておきます。

### 6. 天候チェック

局地的な集中豪雨など異常気象や落雷による事故・被害が発生しています。活動前に必ず天候チェックを行い、プログラムの実施、変更、延期または中止など適切に状況を判断して決定します。

以上